



地域日本語教育の専門家って何するの？

～空白地域解消の実践(広島県江田島市の事例)から～

(公財)ひろしま国際センター
犬飼康弘

江田島チーム

■ 江田島市

- ✓ 市民生活部 人権推進課

■ コーディネーターグループ

- ✓ 現在、5名のコーディネーターグループ
- ✓ チーフコーディネーターは日本語教育経験あり

■ アドバイザー

- ✓ シニア アドバイザー
 - 伊東祐郎：東京外国語大学・大学院国際日本学研究院教授
- ✓ 日本語教育施策推進アドバイザー
 - 結城恵：群馬大学大学教育・学生支援機構教育基盤センター教授
 - 犬飼康弘：(公財)ひろしま国際センター 日本語常勤講師

江田島市について

■ 2013年3月14日

- ✓ カキ養殖加工会社で、中国人の技能実習生により日本人経営者を含めた社員8人が殺傷される**事件発生**
- ✓ 動機について「**さみしさや言葉の壁から精神的に追い詰められていた**」ことが指摘
- ✓ 市民、企業、関係団体を巻き込んだ「江田島市外国人市民交流推進協議会」設置
- ✓ 「**外国人市民交流事業**」の実施（スポーツ・食文化教室等）
- ✓ **多文化共生相談員**（フィリピン・中国）を雇用

江田島市について

■ 2016年6月

- ✓ 日本語ボランティア基礎講座実施

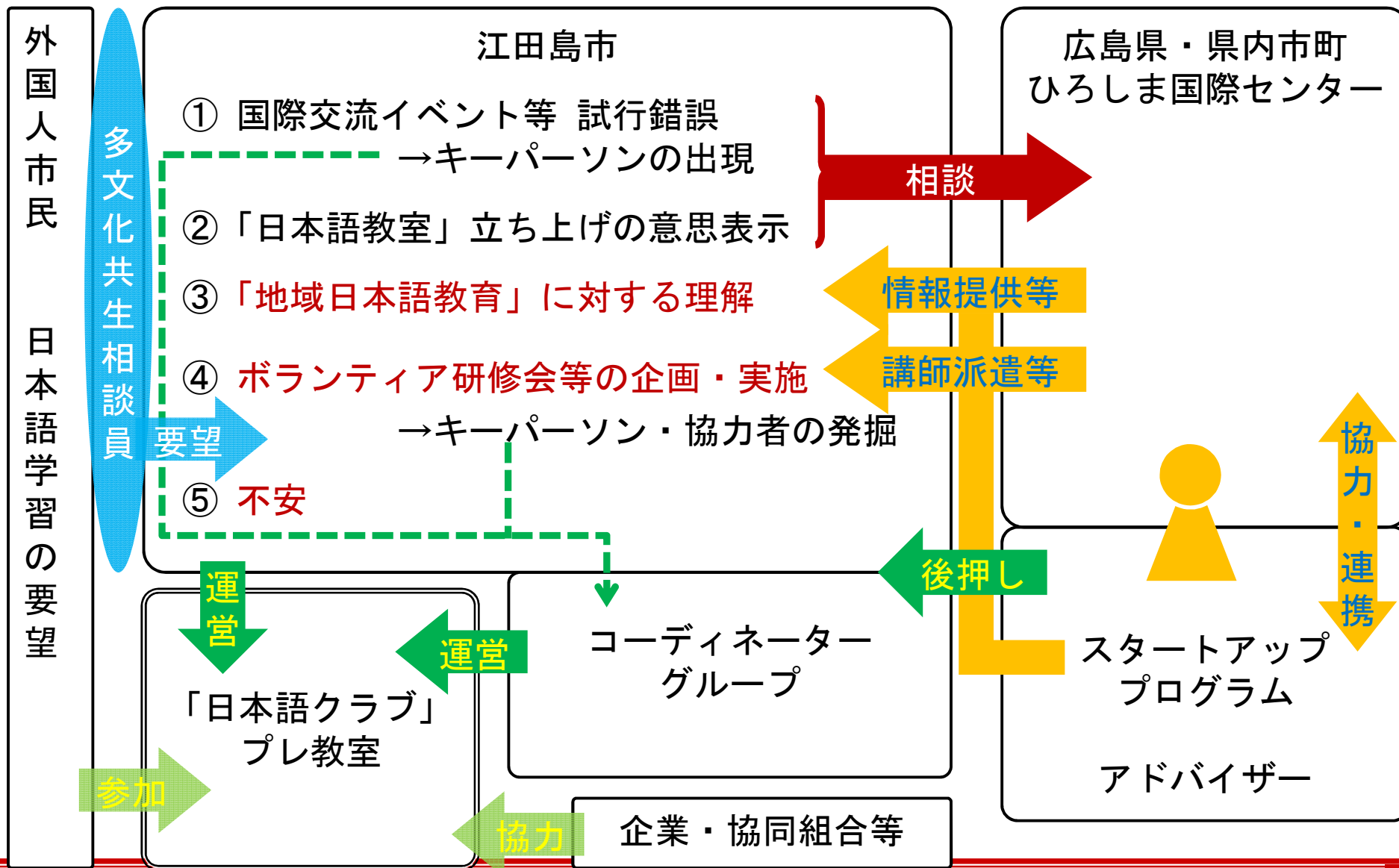
■ 2016年9月

- ✓ 文化庁 地域日本語教育スタートアップ プログラム開始

■ 2017年4月

- ✓ 日本語教室「日本語クラブ」開始
 - 毎月 第1・第3 日曜日 13:30~15:00

日本語教室の新規立ち上げに向けて…



「地域日本語教育」に対する理解

■ 「地域日本語教育」 = 「日本語学校」



「地域日本語教育」 ≠ 「日本語学校」

- ✓ 市民ボランティアがその中心的担い手
- ✓ 教室の活動形態、運営体制などが多様
- ✓ 開催頻度は、週1回2時間程度である
- ✓ 学習者は、子どもから大人まで年齢も幅広い
- ✓ 日本語を学ぶ目的も様々
- ✓ 日本語レベルも多様

(杉澤 2012)

✓ 「地域日本語教育」の役割・機能

- 「居場所」「交流」「地域参加」「国際理解」「日本語学習」

(野山他 2009)

ボランティア講座

■ 「やってみよう！ 日本語で交流！ ～楽しく伝えて、楽しくすごそう～」

✓ 2017年2月18日

- 「みんな毎日どんな生活してるの？みんなの活動範囲を知ろう！」
- 「地域で『暮らす』地域の『人財』をみつけよう・つながろう！」
- 「楽しくなくっちゃ続かない！ 日本語活動を組み立ててみよう！」

✓ 2017年3月18日

- 「地域日本語教室スタートアッププログラム」について
- 「カードや小道具などを使った日本語活動を考えてみよう！」

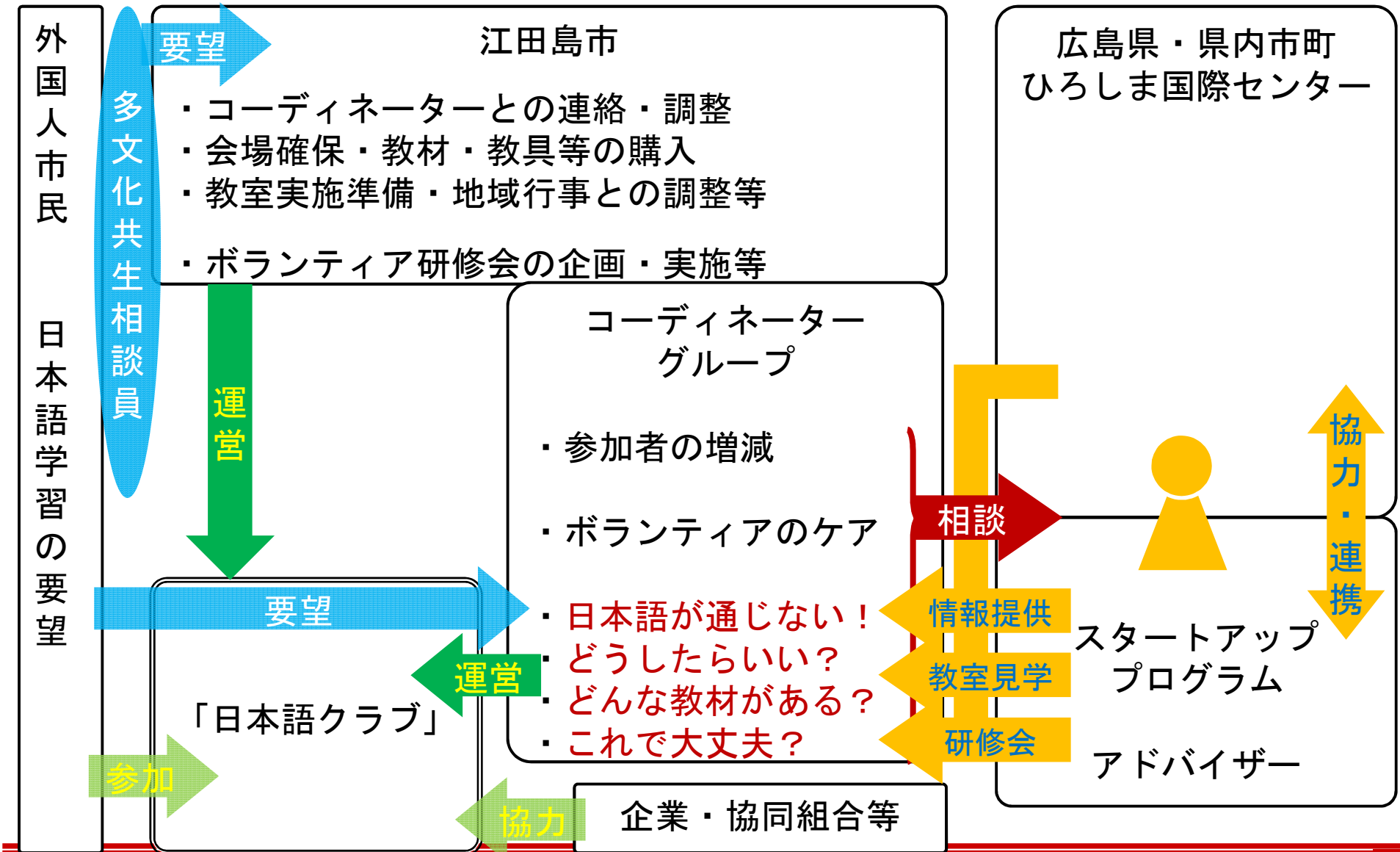
コーディネーターの反応(抜粋)

- これまで自分が携わってきた日本語教育の概念を変えること。そして目の前にいる外国人のニーズをよく理解する必要があることを改めて学んだ。
- 「コミュニケーション」を中心に、役に立つ、楽しい「教室？」を目指すことだと学んだ。
- 参加者が、とても前向きに日本語教室について考えていたのが印象的だった。協力してくれる人はいないのではないかという不安が少し解消された。
- このプログラムは外国人やその周辺の人のためだけでなく、江田島市民のための取り組みであるという概念を広めていきたい。



- プレ教室の実施

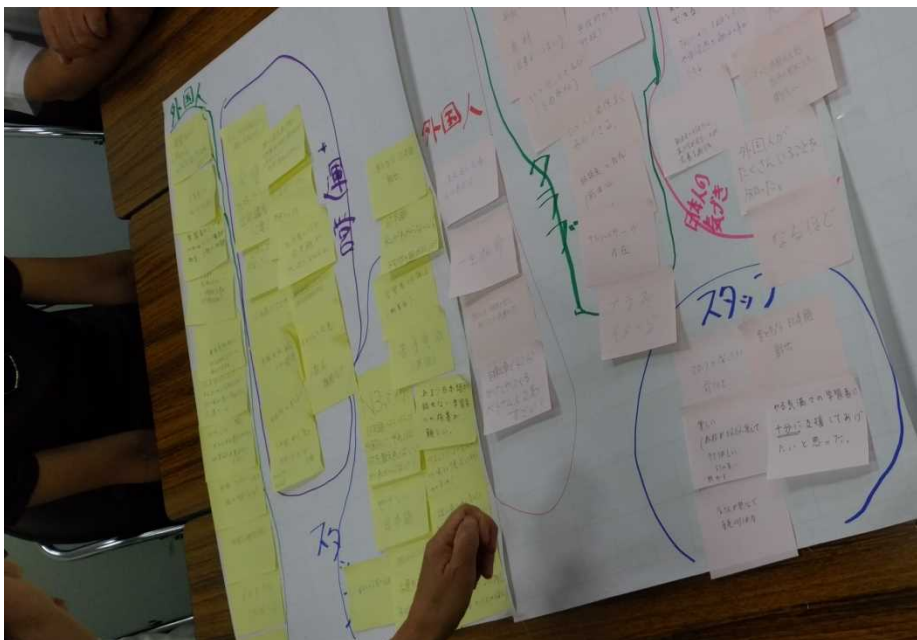
日本語教室が立ち上がったから…



教室活動の振り返り…

■ 2017年7月22・23日

- ✓ マインドマップを利用した振り返り
- ✓ KJ法によるまとめ&共有



- ✓ アドバイザーを含めてのディスカッション
 - 省察の「場」づくり

取り上げられた悩み・課題…

- 学習者のニーズを引き出すのが難しい
- 日本語がゼロ初級レベルの学習者の対応が難しい
- 何のための教室かが分からなくなることがある
- 日本語クラブのPRをどうするか
- (地域に参加・PRできる) イベント的な内容も検討したい

→ 今後、一つ一つ解決策を模索

コーディネーターの反応(抜粋)

- 日本語クラブが始まって3か月が経過した今、**問題点や現状把握ができた**と思う。
- 問題点は取り上げやすいが、満足している点、うまくいっている点はなかなか目がいなくて、**何となく不安の残るミーティング**になってしまった感がある。
- コーディネーターのまとめ役としての役不足を大いに感じたとともに、**自分自身が方向性が見えていない(または伝えきれていない)**ことがよく分かった。

アドバイザー(専門家)として果たした役割

■ 教室の立ち上げまで…

✓ 「想像」と「創造」の支援

- 「地域日本語教育」について共に考える
 - 地域の課題は何か
 - そのために、何ができるか/しなければならないか
 - 課題解決のために、どんなリソースが活用できるか
 - これから、どんな地域にしていきたいか
- きっかけ作り
 - ミーティング・研修会・イベント等を通して…
 - 》人と人の出会いの場/キーパーソン・協力者との出会い
 - 》外国人市民の声を聴く機会
 - 》「どうすれば…」を、みんなで考える機会

■ 教室を立ち上げてから…

✓ 「掘りどころ」であり「伴走者」

✓ 「共感できる当事者」であり「冷静な観察者」

アドバイザーとして活動してみて…

■ 現在までに、どのような経験が活かされているか…

- ✓ 地域日本語教育について悩んだ経験＜段階1＞
 - 自らのボランティア経験＜情報収集・報告＞
 - 様々な教室の見学・参加者の声を聴く経験＜情報収集・調査＞
 - キーパーソンとのネットワーク＜情報収集・調査＞
- ✓ 地域日本語教育に関する研修会等を実施した経験＜段階2＞
 - 「想像」し、「創造」した経験＜企画・交渉・調整＞
- ✓ 日本語教師としての経験＋「ずらし」の経験
 - 日本語教師としての経験・「引き出し」＜段階3＞
 - 地域で活用するための「ずらし」＜段階4：修正能力＞
- ✓ 参与観察の経験＜段階1＞
 - 「場」を記録に残した経験＜情報収集・調査・報告＞

主な参考文献

- 杉澤経子 (2012) 「地域日本語教育分野におけるコーディネーターの専門性—多文化社会コーディネーターの視座から—」 『シリーズ多言語・多文化協働実践研究』 15, pp. 6-25. 東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター.
- 野山広 他(2009) 「地域日本語教室の5つの機能と研修プログラム —豊かな学びと人間関係づくりを目指して—」 『シリーズ多言語・多文化協働実践研究』 10, pp. 58-101. 東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター.
- 山西優二(2011) 「多文化社会コーディネーターの専門性形成と協働実践研究の意味」 『シリーズ多言語・多文化協働実践研究』 14, pp. 4-14. 東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター.